

2016年8月3日開催
2017年3月期第1四半期決算説明会での主な質疑応答

Q1 減収となったポテトチップスの今期の見通しを教えてほしい。

第1四半期に使用した馬鈴しょ品質が悪かったため原料供給不足の懸念が起き、一部ポテトチップス製品の終売を早めたり、季節商品の発売開始を延期した結果、減収となりました。国産馬鈴しょの収穫が本格化する第2四半期以降は、期初にたてた商品発売計画を確実に実施していきます。

Q2 ジャパンフリトレーの営業利益改善の進捗状況を聞かせてほしい。

第1四半期は、販売費のコントロールなどを行い、大幅増益となりました。しかし、固定費については一時的な要因による減少もあったため、第2四半期以降同レベルを継続するのは難しいと考えています。今後は利益拡大に焦点をあてたオペレーションを実施します。

Q3 北米の第2四半期以降の売上見通しについて教えてほしい。また、Costcoにおける売上状況はどうか。

北米については徐々に売上を回復し、現地通貨ベースでは5%の増収となりました。主要な取引先であるCostcoでの売上状況は、前年同期に比べて8割程度まで回復しています。今後は新製品の投入も計画しており、さらなる売上拡大を目指しています。

Q4 韓国の稼働率、利益や新製品の状況を教えてほしい。

当初の計画では、5月の新工場稼働開始以降、新しいポテトチップスのフレーバー製品を複数発売する予定でしたが、発売開始が遅れました。8月以降4-5品の新フレーバーを順次発売する予定です。第2四半期以降は稼働率、利益ともに改善するとみています。

Q5 原材料費の減少、原価改善における円高の影響額と、第2四半期以降の見通しについて教えてほしい。また、フルグラの売上が増える中で、原価率の見通しはどうか。

円高による原材料費の減少は約2.5億円、原材料以外の原価の減少は約1億円(動力費)です。現在の為替水準が続けば、年度の後半にかけて原材料費の減少は続くと見込まれます。

一方で、フルグラについては、配合や加工プロセスの見直し等のコストリダクションも進め、原価率は改善しています。フルグラの売上増加による製品ミックスの変化は、原価率に影響はありません。

Q6 原価改善(稼働率の向上等、減価償却費の減少)の詳細を教えてほしい。

稼働率の向上等のうち、プラスの影響の最も大きいものとして、円高と原油安の影響を受けた動力費の減少が約4億円です。一方で、マイナスの影響として北米や韓国での稼働の悪化が、それぞれ約2億円、約1億円含まれています。

減価償却費については、通期計画では前期比で増加する見込みですが、まだ償却が始まっていない設備等があるため、第1四半期においては約2億円の減少となっています。

Q7 販売費が計画を上回っているが、具体的な内容と今後の見通しを教えてほしい。

第1四半期は、フルグラとじゃがりこのプロモーションを積極的に実施しました。販売費は売上のモメンタムに直結するため、現場と議論しながら年間でコントロールしていきます。

以上